

Light Up Rotary

第2780地区
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長
ゲイリー-C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 河本 親秀

幹事 井上 浩吉

第2318回 例会 平成27年3月5日 (晴) No.32

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：君が代・奉仕の理想

◇プログラム ・3月12日：守屋紀忠さん ・3月19日：休会(定款適用) 3月26日：夜間例会

◇出席報告	例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率	◇欠席者(5名)
	2318回	18(16)	11	68.75%	—	—	小林、宮澤、石山、鈴木、原さん
	2316回	18(16)	8	50.00%	—	—	◇メークアップ(0名)

◇おめでとうございます



誕生日祝：

野田幸嗣さん (2/12)

51回目の誕生日になります。出来るだけ出席するよう努力します。有り難うございました。

「かながわ」は昔、神奈河、神名川、上無川などと書かれ、武蔵の国久良岐郡(現在の横浜市神奈川区)の地域を言い、古くから陸上、海上交通の重要なところでした。これが県名になったのは、開港に伴い、安政6年(1859年)横浜に「神奈川奉行所」を置いたことによります。そして明治元年(1868年)9月に神奈川県となりました。

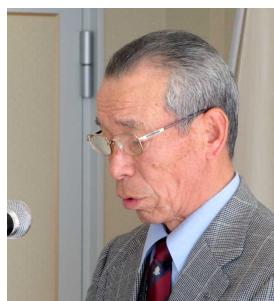
又その他に「神奈川県発祥のもの」として3点が紹介されていました。①三浦半島の西洋式灯台「観音埼灯台」、②横浜の居留地に「西洋式理髪店」③それに我が大磯に出来た「大磯海水浴場」であります。

・例会後モロキニにて理事会を開催します。

◇会長報告

守屋 紀忠会長

・3月の初例会です。この2-3日暖かった様ですが、梅も桜も2月が寒かったせいで開花が遅れぎみです。大磯の虫窟や月京の通りにあるカワヅ桜がぼちぼち咲き始めています。運動公園に植えたカワヅ桜は未だ見ていないので分かりませんが…。



＝会場から＝プリンスホテルのカワヅ桜は満開です。一度花見例会やりませんか？

神奈川はじめて物語

「神奈川県のとより」より

◇幹事報告

井上 浩吉幹事

1. 第49回神奈川県ロータリアン親睦テニス大会(上野会)のご案内
2. 訃報：大塚健次氏(平塚RC会員)3月4日永眠(享年83歳)=6日お通夜、7日告別式、平塚斎場
3. ロータリーカード及びロータリービジネスカードの加入状況について調査依頼
4. 例会変更：秦野中、寒川RC
5. 回覧：The Rotarian誌

◇一言：大磯町の歴史

井上浩吉さん

鳴立沢庵＝先週、相雪の話をしました。相雪が何故今の場所に庵を結んだか？色々考察してみましたら源頼朝が石橋山の合戦で敗北を喫します。その5年後に西行法師が大磯に参ります。そして有名な「心なき・・・」の歌を歌ったとされています。それが「しぎたつ沢」。学会では鳥になっていますが、どうも鳥ではあの歌の意味が全然違ってしまいます。私はそれを深く調べたく思いました。調べたところそこは墓であった事が分かりました。その証拠として、大磯で庁舎を造った時に、大量の白骨が出た。これは町民には内緒になっておりますが、何故か私の耳に入りました。ところが、その骨には髑^{シヤレコウベ}髑がない。胴体ばかりであった。頼朝が負けた時に北条と大庭景親の軍の挟み撃ちに遭って殲滅されたのが大磯近くであったのではないかと。要領のよい者は石橋山で敗北が分かった時に箱根越えて逃げたのですが、頼朝は真鶴半島の洞穴に入って難を逃れ大磯の漁師二人がそれを救出して房総に送り届けたという記録があります。

西行が来た時にはすでに「鳴立沢」という名称があったのではないかと？西行はその名称を奇異に感じていた。そこへ行った時素晴らしい夕焼けの景色があって、鳥が立つのと墓標があるのとで歌の意味が全然違ってしまいます。墓標が立っていたのを西行が歌ったのではないかと？その後西行を慕っていた相雪がそこにお寺を立てたと言うことは記録にはっきり残っています。それが後に湘南の地が鳴立沢にあるとなった。最初の名前は「鳴立庵」ではなくて「鳴立沢庵」です。そういうことを考えて行くとあそこは間違いなく戦場で敗れた人たちが埋葬された場所であったという事が分かってきます。

◇委員会報告

☆スマイルボックス

太田 知加子さん

・守屋紀忠さん：
斎藤先生卓話よろしくお願ひします。野田さん誕生日おめでとうございます。

・井上浩吉さん：
野田さん誕生日おめでとうございます。斎藤先生卓話楽しみです。



- ・河本親秀さん：斎藤ドクター卓話楽しみにしています。野田さん御誕生日おめでとうございます。
- ・百瀬恵美子さん：野田さん誕生日おめでとうございます。斎藤ドクターの卓話たのしみです。
- ・新宅文雄さん：斎藤ドクターの卓話楽しみです。野田さん誕生日おめでとうございます。
- ・太田知加子さん：ドクターのお話楽しみにしております。お誕生日、野田サンおめでとうございます。
- ・田中敏治さん：野田さん誕生日おめでとうございます。斎藤さん卓話宜しくお願ひします。



◇卓話

◆◆◆時代で変わる教育・歴史の評価

=世相を冷静に見極めて伝える=◆◆◆

斎藤 正淳さん



昨日まで九州で癌や動脈硬化、その他諸々の検診を新しいやり方で受けてきました。又の機会にその話をします。1年に3回行きますと、各回のデータが蓄積されていて、同じ場所を計ります。そうすると動脈硬化の厚みがだんだん増えてくる。そういうのを見ると恐ろしいですね！

前に新宅さんが言われた教育のこと、私も教育は大切だと思います。教育に関して色々な制度がありますが、教育委員会の持っている権力には侮りがたいものがあります。その教育委員会が正当ならば良いんです。教育委員会の人たちは殆どが教師上がり

で、日教組で鍛えられています。そういう人たちが仮面をかぶって色々な通達を出してくる。私が中学校で校医をしていた時に吃驚したのは、神奈川県教育委員会から性教育の通達が回って参りました。その性教育の内容を見ましたら、顔を赤らめてとても生徒にこんな事を…。セックスのやり方、抱き方、避妊の仕方など…。私は吃驚しました。親は知っているのかな、こんな事を?!。PTAは全く知らない。すべて養護教員の仕事として教育委員会から言ってくる。見せる義務があるとビデオでやる。私は「ちょっと待ってくれ」と、見せる前にPTAの方に集まって貰ってビデオを見せました。一人として賛成する人はいない。こんなのを見せられたらかなわない…。それで没にした。ところが養護教員には上から圧力が掛かる。それでもPTA会員と協議して没に。これから先、ドクターの許可がなく見せたら困ると言うことに。中学1年生の自分の女の子が安全なセックスのやり方を教えられるなんて…!

その時に話したのは、私たちの年齢での知識で子供のことを考えるが、今の中学生は我々の時代の高校生の知識を持っている。小学生は中学生の知識を持っている。私の友人に産婦人科の友人が沢山いますから聞いてみました。僕が大磯で開業した頃、高校生で中絶に来た子がいました。それが小田原辺りから来る。時期は9月頃。待合室に3人くらいで来る。その中の一人が当人で二人は付き添い。診察して「妊娠してない」というと「ヤッター」と喜んで帰った。それが本当の時は皆で義援金を出し合うんです…。この話をすると、友人はそれは今中学生ですという。親の方は自分の頃のことを基に考えるが…。

自分の過去をじっくりと考えてみると、100年、200年前の事項が影響していることが一杯あります。学校で習うこと、明治から昭和20年までは国定教科書があり、全国一律に同じ事を学ぶ。だから話していることも大体水準は分かります。自分は末っ子でしたから一番上の兄から13歳違いました。兄貴の教科書は家にある訳です…。

雑談ですがバーのママさんの年など親しくなるまで年齢は聞けない。それで工夫して教科書の話を書きます。私たちは「サイタ サイタ サクラガ サイタ」(昭和の中期)。その前が「ハト マメ マス」。それで年上かどうか分かる。また内容も違っている。今は「お父さんに挨拶しました」ですが、兄の時は「挨拶申し上げました」など敬語が一杯入っていました。それが年代が下がってくるとだんだん雑になってきています。いけないことに戦争中に、

上に対しては「理屈無しに従え!」。それより前は上を立てることは習いましたが、理に合っていれば従えと言うことでした。

それから戦争が終わって大人になって、見聞きすることが変わってきます。子供の頃父は朝日新聞をとっていました。朝日は毎日新聞と猛烈な競争をしてしていました。朝日も毎日大阪出身です。毎日東京日日新聞を買収して東京毎日新聞を創りました。東京では時事新報、読売新聞=明治初年、正力松太郎が警視庁警視総監からやってきて創立。当時の東京の新聞は都新聞など三面記事を大きく扱い、大阪朝日、大阪毎日の高踏的な記事と比較して、赤新聞と言われてた。その中で読売新聞が特徴を出すために野球を持ってきて、読売巨人軍を創り、それを販売拡張の宣伝に使いました。当時は時事新報がトップでしたが競争に負けて読売新聞に買収されたり、産経新聞に買収されたりしましたが廃刊になりました。有名な国民新聞は萬朝報を買収し、日露戦争大賛成論をぶち上げました。事実戦争になり、ポーツマスで和睦条約を結び特命全権大使の小村寿太郎が帰ってきた時に、取り分(賠償)が少ない、と猛反対し、日比谷焼き討ち事件をを起こしました。私の父は明治生まれでそれを見ていました。国民新聞も焼き討ちに遭いました。民衆をリードするのが新聞であると言われながら民衆に引きずられてる新聞も沢山ありました。

朝日と毎日の競争は子供心にも感じられました。朝日は飛行機による世界早周り=東京-ロンドン間に軽飛行機(神風号)を飛ばして、尾翼に朝日のマークを入れ、何日の何時・何分何処に付いた等バンバン報道し新聞の売り上げを伸ばして行きました。

戦争が始まると日本軍の勝利を大々的に書くんです。センセーショナルとは当時は思いませんでした。その中で出てきたのが「南京大虐殺」。毎日新聞が書いた「百人切り」。当時それは本当の事と思っておりました。本当に戦闘に参加した人は10人も切ったら刃がボロボロになり使えなくなると言っている。二人で100人切り競争など出来るはずがないし、それを書いた記者も、後々本当ではなかったと言っている。その100人切りを書かれた二人の将校は日本に帰って来てから捕らえられて中国で死刑になっています。記事として出てくる時、民衆は本当だと思えます。戦後何十年も経って本当のことが分かる。

記事は特派員が大々的に書くんです。日清戦争の時の特派員で松山出身の正岡子規、彼は病気/結核持ちでしたが、萬朝報の記者としてどうしても行きたかった旅順まで行っています。そこで病気にな

って帰って来ました。それほど新聞特派員は名誉なことで国民に受けた訳です。

私は子供心に日本皇軍の将兵が中国の子供を可愛がっている写真などを見ましたが、それが戦後になって嘘だとひっくり返された。その時に出てきた「真相」という雑誌がありました。戦争中我々はこんなに嘘を教わった。「真相はこうだ！」この雑誌を見るとみんなひっくり返される。ところが今はその雑誌、真相の記事がソ連の謀略であって決して真相ではなくて、戦後の共産党を応援する為にあの様な記事を書いたと言われています。

その中で一番印象に残っているのは昭和21年に入ると、復員船が帰ってくる、外国から引揚船が参ります。朝鮮から、満州から。中国本土も割り方早く蒋介石が帰してきた。その引揚者の中で、日の丸の旗を振って大変な騒ぎで迎えられたのが延安=中国共産党の本部があった=から帰ってきた野坂参三。凱旋將軍の如く新聞一面の上半分に博多か下関に上陸する写真／記事が出た。子供心にこんな大きな記事があるのかな！偉い人だという気がしました。共産党のボスになり、30数年君臨してきましたが、引退し名誉会員になりましたが、最後は、それは間違いであった。ソ連のスパイだったと言うことで共産党を除名された。しかし何十年も騙し続けてきた。

こういう事を見ると当時の世相をまともに受けていると、その中から自分の考えを確立して、引き算して行かなければならない。

教育や新聞だけでなく、テレビ、ラジオ、少年雑誌、漫画本。これらは子供に大きな影響を与えます。その中で関ヶ原の戦いだとか、徳川幕府の鎖国が良かったか？悪かったか？今では公正に評価されるが、僕たちの時は鎖国は悪かった。世界に対して日本を閉ざして、それで日本の発展はなくなった。マイナスの印象が多かった。今は、当時の東アジアへのヨーロッパの攻勢に対して、国を閉じて250年もの平和を保てたのは良かったのではないかと言う評価が出てきています。こういう評価は、当時の識者の中にはあったと思われませんが、そのような声は抹殺されました。それから考えると徳川幕府を悪く言い、子供心に漫画で徳川家康を狸親父。それに対して良かったのが真田十勇士。豊臣がよく言われた。明治時代に徳川を滅ぼし政権を取った薩長の人達がやった教育は、アンチ徳川。そして天皇を尊敬する余り足利氏を悪く言った。本当は足利はそんなに悪くはなかった。そんなことが子供に影響してきている。それが今ひっくり返っている。

昭和19年サイパン島が陥落しました。その時私は

小学生でした。上の上の兄が中学校の最上級生。その兄が家族でテーブルを囲んで食事をしていた時に「もうダメだ、日本は負けた」と言ったんです。親父の血相が変わって「何を言うか！！日本は神国だ、今に神風が吹く」。父は当時52歳、病院の院長でした。私は兄が「負けた」と言ったことに吃驚しました。当時「負けた」と言うことは禁句でした。

しかし禁句でなくて本当に負ける筈がないと思っていました。それが目の前で兄が「負けた」と、親父は「神風が吹く」と。私は神風の話は知っていました。終戦後、親父に本当に思っていたのか聞こうと思いましたが聞けなかった。18-19歳の兄が日本は負けると。事実サイパンを失ってからサイパンからB-29が飛び立って東京を爆撃し、1年足らずで敗戦に追い込まれた。

母が一番上の兄を医者にしていました。その兄が戦争に行く時、母は元気で送り出したと思ったんですが……。当時は兵隊に行く時は一家を挙げての名誉事ですから。ご馳走を拵えて、近所の人を呼んで、幟を立てて行進して行く。私は子供心に嬉しくて仕方なかった。終戦後にその兄に聞いたら、母は台所でご馳走を作っていた時に涙を拭いていたよと聞かされました。2番目の兄は元気で、「敵をぶっ殺してきます」と言って征きまして、80人中3人の生き残りとして帰って来ました。

3番目の兄は海軍兵学校を受けました。不幸にして合格しませんでした。中学校5年生を卒業して一浪までは許されるが、二浪は徴兵に引っかかって軍隊に採られます。それで母はいても立ってもいられなかったんでしょう。どうしても医学部に入れようと説得したのですが兄は医者になりたくなくて1年目は受験しないで帰って来てしまった。このままでは徴兵されるので、2年目は母はアメリカの潜水艦に撃沈される恐れがある玄界灘を船で渡り、医学校の校長（父の親しい友人）に頼みに行きました。体格が良いので甲種合格で一番に兵隊に採られる事疑いなしでしたので……。兄は違う学校に入りましたが終戦後すぐ医者をやめ新聞記者になりました。（笑）

今の世相の中で、親は冷静に考えて割引して子供に話すことが大事だと思います。皆さん方も新聞などを見る時に、そういう目で見ると、どれが合ってるか？正しいか？のお役に立つと思います。